

ナマステ

特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌



134 号

2018 年 12 月 10 日発行号

来年もよろしくお願ひします～！！



キャンプ場はトイレ棟がほぼ完成、仕上げは春になります。消防署の指導もあり、火災報知器の設置など少々の整備もしました。



『第 15 回 NPO 法人 自然文化誌研究会 通常総会』のご案内

2004 年に東京都の認証を受けてから、第 15 回目の総会を行います。正会員の皆様はぜひご出席ください。また出欠を同封のハガキでお知らせ下さい。このハガキは欠席の場合は委任状となっております。ご意見などもお気軽にお寄せください。なお、正会員以外の会員の皆様もオブザーバー参加が可能です。

日時：2019 年 2 月 16 日（土） 15:00 開始～16:30 終了予定

場所：神奈川県相模原市緑区藤野町 藤野中央公民館 の予定

＜住所：神奈川県相模原市緑区小渕 1992 TEL：042-686-6151＞

* 藤野地域での変更の可能性もあります。日程が近くなりましたら、本会のホームページか、事務局まで電話かメールにてお問い合わせください。

議題： ①2018 年活動報告 ②2018 年収支報告 ③2019 年活動計画

④2019 年収支予算 ⑤理事の選任 ⑥その他

* 終了後に懇親会も予定しております。

会場の変更や資料準備の関係のため、出席を予定される方は、必ず事務局まで教えてくださいませ！！

INCH まつり これから

中込 卓男

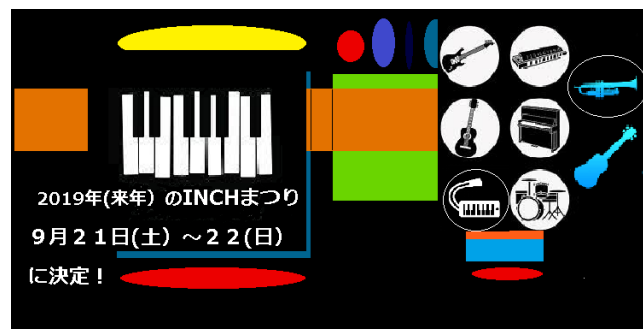
今年も9月22日(土)～23日(日)にいつものキャンプ場でINCH まつりが行われた。INCH まつりはライブが中心であることは8回目になっても変わらない。

そもそも INCH まつりとは何なのか、2011年から始まった会員向けのイベントである。



▲2012年9月 第2回 INCH まつり

会員はスタッフとして子どものキャンプ等に参加、またセミナー、野人講座等の活動に参加できるが、会員向けのイベントがあってもいいということでスタートした年一回のイベントである。たまたま音楽好きな私や鈴木英雄さんがいたので音楽イベント、INCH ライブになった。もちろん他のイベントでもいいわけである。今回は宮本透さんが自分で作ったお茶の販売を行った。INCH マーケットでもいいのである。こんなことをやりたいという企画があればぜひ事務局へ連絡してほしい。



今年は多くの参加出演者が集った。毎回参加の鈴木英雄さん一人で12弦ギターを弾きながら歌う。セッションではベースも弾く。私と「ふた

りチョークス」を組む武藤さん。彼が職場の友人と作ったトランペット、ドラムス、キーボード、ヴォーカルのバンド「ふろるでるそる」。



▲鈴木英雄さん
12弦ギターで
静かに歌う



▲ふろるでるそる 4人組のバンド

▼山中進さん 斉藤さん 素敵なマーチンギターで



3年前から常連になった秩父冒険学校時代の友人、山中進さん。ギターと唄と軽快なおしゃべり。今年は彼のバンド仲間斉藤さんも来てくれた。



中川ファミリー



▲高関駿さん

私の友人、中川ファミリー、キーボードと鍵盤ハーモニカ。来年は息子さんもサックスでデビューとか。ハイトーンヴォイスの高関俊さん。篠笛を吹いてくださるキャンプ場オーナーの木下善晴さん。最近では歌も披露してくれる。今年はさらにミュージシャンの甲武信小屋でスタッフとして働いていた北爪清史さんが来てくれた。通称爪ちゃん。15年ぶりの再会である。ギター一本でのオリジナル弾き語りは迫力があつた。また、善さんの歌の伴奏も即興でお願いしてしまった。とてもいい感じで善さんもお満悦であった。



▲木下善晴さん



今回ライブは第3部までであった。第1部はそれぞれの出演者によるライブ。第2部は出演者同士のセッション。鈴木さんのベースはカッコよかった。第3部は観客無視の(もう聴く人もいない)演奏会場の昨年床を張ったログハウスでセッションというか音を出して遊ぶものであった。楽しかった。INCHライブはこれでいいと思う。来た人たちがそれぞれに楽しむのである。

参加者の多くは音楽を聴きに来る人はほとんどいない。出演者が多数を占める。他には岐阜から来てくれる佐伯順弘さん、いつもおいしいウヰスキーを持ってきてくれる。彼のウヰスキーを巡る旅の話を肴に囲炉裏端を囲む。スタッフ的に動いてくれるありがたい若者も来てくれる。この夏一緒にタイへ行った若者大窪くんや一昨年一緒に行ったダニエルこと賛田くん。タイの近況などを話す。

本会副代表理事のごみさん(中込 貴芳)がこの季節ならではのキノコを採ってきて、いろいろ料理してくれるのも INCH まつりの風物詩。くろちゃん(事務局長 黒澤友彦)やはるちゃん(黒澤 東江)の料理を中心とした裏方もありがたい。いつも感謝である。



▲ひでやんのBAR

まつりのメインはやっぱりひでやんのカクテルバーであろう。自家用車にいろいろなお酒を満載して炊事場付近にバーを開くのである。みなこれを楽しみに来るのだ。タイの歌で「デュアンペン(満月)」というカラワンが歌って有名になった曲がある。私も怪しいタイ語で歌うのだが、ひでやんに「満月」のイメージで何か作ってとお願いすると、ちょっと考えて「わかりました。」しばらくして「できました。」と。これがまた実においしいのである。女性はたいがい「私のイメージで」と注文するらしい。きまってとてもおいしいとほほえむらしい。ひでやんは山梨の田舎に移り住んで作物も作っている。今年はぶどうを持ってきてくれた。



▲再会の北爪清史さん

来年の INCH まつりの日程がもう決まった。ライブの翌日にひでやんの都合の付く日を最優先して決めたのだ。INCH まつりにひでやんは絶対外せないのである。

次回『INCH まつり』日程
2019年9月21日(土) 16:00スタート～22日(日)

新連載 『冒険学校を考える』 その 1

自然文化誌研究会の紹介として、この会報ナマステの最後にも紹介文がありますが、「冒険・伝承・創造をキーワードに国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア」として、40 年以上にわたって活動が続けています。』とあります。今回のナマステ 134 号から、「30 年以上」を「40 年以上」に書き換えました。

東京学芸大学の公開講座「子どものための冒険学校」の開始から 30 年を経過し、フィールドを五日市～大滝村～小菅村と変遷させながら、なお今、継続中の「冒険学校」。その『冒険学校』について、運営側の考え方や今後のあり方などを少しずつ掲載していけたらいいのかな？と考えました。

現在も、理事の鈴木英雄さん、夏の村長の雫さん、水戸の佐々木さん、岐阜の佐伯さんをはじめとしたベテランの方々と、若い助言者（本会の理論では、スタッフではなく助言者という表現を使っています）と検討を重ねながら進めています。まふゆのキャンプの直前ですが、既に来年の冒険学校の話し合いをしています。

1 回目は、岐阜の佐伯さんから届いた文書を掲載したいと思います。参加者のみなさまではなく、助言者に向けた文書です。

（事務局）

『冒険学校に参加したときに思ったことの一部』

佐伯 順弘

1985 年 冒険探検部入部

現在 岐阜県小学校教諭

■学部生への思い

貴重な夏休みに海外旅行にも行かず、山にも登らず、自転車旅行にも行かずに、1 週間も子どもの安全を見守りつつ過ごす過酷な企画に参加してくれている学部生には頭が下がります。その昔、同じような状況で私は「オレは冒険探検をしに来たのであって、お子様の世話をしに来たのではない。」と少しだけ悲しい気持ちで参加したことを思い出します。ただ、集団に対する食糧計画や調理片付け、食糧損失（残飯、調理残渣）の軽減策、環境への負荷、各個人の体調への影響などについての重要な考察を得られたことは貴重でした。また、意思疎通の大切さや認識不足の相手との交渉などその後の人生においても有意義なことについて考えることができました。

諸般の事情により、そんな冒険学校から随分と長い間離れていたのですが、5、6 年前から再び参加するようになりました。久しぶりに参加した現在の冒険学校はといえば、実に多くの学部生が活躍してくれています。中には、毎回のように参加してくれる人もいて、大変うれしく思っています。その一方で、冒険学校に（奉仕活動という言葉ではなく）「義勇兵」として来てくれている学部生に対して、年長の助言者の立場から何か有用なものを伝えられているのかということをも考えています。というのは、参加者対応が優先されるのは当然であるため、学部生助言者に考え方や技術を伝える時間は思いの外少ないからです。学部生たちは最初から指導者としての判断力や技術を身につけて参加しているのではなく、冒険学校を通して参加者と接しつつ、

また先輩担当者との意見交換を通して指導者として自問自答しつつ、その場にふさわしい判断力や指導技術を獲得していきます。ですから、不測の事態が起きた場合、そうでなくても新しい動きが起きた場合、参加者を安全かつ有意義に預かることができるかには不確定な部分が生じてきます。これは決して、学部生の信頼性の問題ではなく、冒険学校として運営側は学部生にどれだけの訓練の機会を提供してきたのかということなのです。現状では、年長の助言者が全体を観察、統括しており、参加者数も十分把握できる数なので特に問題はないのですが、学部生の訓練の機会があってこそ、より安全により有意義な冒険ができると思うのです。私自身は野外活動や集団生活技術、集団指導力も身につけてきているので、大抵の事態には対応できると考えていますが、学部生の中には不安を感じている人がいるかもしれません。このような状況でも学部生にはこれからぜひ冒険学校に参加してほしいと強く思っています。学部生が楽しんで活動することこそ参加者の冒険学校をより充実させるものなのです。それは間違いないのです。しかし、手放して「子どもと一緒に遊んでくればいいから。」とは言えない部分があるのも確かです。その中であって学部生には、真摯な観察力と判断力で子どもの命と身体と貴重な体験を守りつつ、自分なりの冒険もしてほしいと願っています。それは、きっと海外旅行や山行とは違った経験につながると思っています。それを確実に実現できるように、私は学部生に少しでも多くの助言をしたいと思っています。さらに、少し冒険探検部寄りの野外技術や工作の小技などを伝える機会をつくりたいとも思っています。

いずれにしても、学部生の参加なくしては、冒険学校は成立しません。学部生の参加が少なくても、参加者の安全や充実した冒険を保証することができないのです。助言者が確保できなければ、参加できない子供が増えることにもなります。冒険学校が縛りとなって、自分自身の冒険探検が制限されるようなことがあってはならないのですが、できるだけ多くの学部生に長期の参加を期待していることも正直な思いです。

冒険学校が小中学生の冒険探検の場であると同時に学部生、社会人にとっても冒険探検、研修の場であってほしいのです。そのために、私たちはこれからの自然文化誌研究会に何ができるのかを考えていかなければなりません。

（※事務局より この後、検討事項を挙げて載けていますが、会報のため以下の文書を抜粋）

荒天による避難についての考え方

「避難」とは、まだ余裕がある内に安全なところへ難を避けて移動することであって、どうにもならなくなってから雨の中、暗い中逃げることは「脱出」といいます。ですから、危険が予知できるならば、素早く避難できる態勢をつくっておいて、これ以上は危険だと判断したら素早く避難することが肝要です。後で「たいしたことなかったね。」となっても正解です。難を避けたのですから当然です。「脱出」では多くの損失が出る可能性が高くなります。また、精神的損害も少なくありません。

今回（※2018 年こすげ冒険学校中の台風 13 号）は万全の準備ができていたため、全く心配ありませんでした。そういった判断や避難計画、そして決定は数人の対策本部で行いました。その後、全体に対して、こういう意味でこういう判断をしたという説明をすることが良い学びになり、避難するような状況や避難先での適切な行動につながっていきます。

2017 年のこすげ冒険学校の時「線状降水帯」による大雨で小菅村役場より「避難勧告」が発令。参加者、助言者の全員で小菅村の指定避難場所である「きぼうの館（ディケアセンター）」に避難しています。

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.9 その 4

世界の森林減少とその課題を解く（4）最終回

～フィールドワークから考えるインドヒマラヤの魅力～

長濱和代（目白大学客員研究員・非常勤講師 東京成徳大学非常勤講師）

インドヒマラヤの魅力をフィールドワークから語ること、それを通じて世界の森林減少と保全について読者のみなさんに関心を持って頂くことができればと考え、4回に及ぶ連載となりました。今回は最終回となります。

前回で書き終えることができなかったカレーの話題からすすめてインドヒマラヤの魅力について考え、インド研究を通じて私が目指すことについて、紹介させていただきます。

1. 現地での食べ物

インドというカレーを思いうかべる読者が多いと思います。たしかに私は山村に滞在中に毎日カレーを食べており、そこでは実に様々なカレーに出会います。私たちが味噌汁に季節の野菜や身近な材料を取り入れていただくように、現地では季節の野菜がふんだんに取り入れられ、多様なカレーが作られています。山村では、地域の人たちのほとんどがベジタリアンで、肉の代わりに豆をいれたダルカレー（写真1）がよく食されています。各世帯で収穫される豆の種類が豊富なので（写真2）、みなさんも家庭に滞在する機会があれば、飽きることなく様々なカレーを楽しむことができるでしょう。付け合わせにはサブジーという野菜のスライス炒めが副菜として出されます。北インドの山村では、良質な豆からのたんぱく質と多くの野菜がスパイスと一緒に食されており、健康的にも理にかなっているようです。どの山村でも80才を超える高齢の長老にお会いすることからも、インドの食の合理性を伺い知ることができます。

現地では家庭を訪問すると、「ようこそ我が家へ」という意味が込められた飲み水が出されます。チャイ（甘いミルクティ）や食事の前にも出されます。ただし現地で出された水はお腹を壊す可能性がありますから、まずはお断りしてください。そしてボイルドウォーター（沸騰後に冷ました水）かミネラルウォーター（マーケットで購入）を飲みましょう。現地に在住している日本人や旅慣れた海外からの研究者は、そうした水を携帯しています。私は世帯訪問のインタビュー調査の時に、最初に出されたお水を断るのは申しわけなく、10年位前に調査を始めた頃は、水を飲んでではお腹を下していましたが、最近は出されたお水を飲んでも異変を感じることはなくなりました。しかし肝炎にかかる可能性もあると途上国の滞在歴の長い日本人の方に注意を受けました。現地の方でも（インドは広域ですから）場所を変えればお腹を下すことがあると聞いているので、飲み水については油断してはいけないようです。生の飲み物、食べ物についても、同様のことがいえるでしょう。



写真1 チャパティ（小麦と水で練り焼く）
とダル（カレー）と青菜のサブジー（2014年）



写真2 「何種類の豆を見つけられますか？」
ウッタラーカンド州テーリーガルワール県
Rawat 家の秋の収穫から（2013年）

2. 冒険に満ちた山村での滞在



写真3 落石にあったトラック

ウッタラーカンド州にて（2018 年）

調査では、いつ谷に落ちるかわからないジープに乗って中山間地域に入り、標高 2,000 メートル前後のあちこちの村落へ入り、山村へ滞在。ここでは南京虫と闘い、野犬にもかまれるなど（インドでは狂犬病曝露後のワクチンを接種しないと命を落とす危険があり、狂犬病のワクチンが接種されている日本の犬とは異なる）、アドベンチャーに満ちています。今年 9 月のインド訪問では、雨季の終末に入ったため、毎日スコールのような雨に合い、デリーはじめ各地域で道路が冠水する様子を観察しました。またヒマラヤ山麓にあるウッタラーカンド州チャモリ県の標高約 1,900 メートルの山村へ向かう途中では、大雨とともに、土砂崩れの場面にも遭遇して（写真3）、落石に当たった車を目の当たりにして、ここで私も命をなくすのか！と思う経験をしました。

不思議なことにそのスリルに満ちた体験は、ワクワク感を増幅させ、またインドへ行って「生きていること」を肌で感じられる体験を再び味わいたいと思わせます。調査中はどこに行くと安全に移動して滞在できるのか、「野生の感」というべき直感（経験による裏付けも含む）に頼って移動し、辺境と言われる場所に住む人々を訪れることに喜びを感じます。今までに体験したことのない自然や地域の人々との出会いや、未知なる話を聞く時は本当に興奮して、脳からアドレナリンが出ているのが感じられます。日本にいる時は、平和な国家と安定した治安に感謝するのですが、「野生の感」は鈍る一方です。そのため私はジョギングなどをして体を鍛え、わずかな有酸素運動による微量のアドレナリンの分泌を感じつつ、次のフィールドワークの機会を待っています。

3. インドのカオスと困難

インドでは急速に人口が増加しています。「カオス（混沌）からなるインド」とは、まずは人の多さを考慮すると良いかと考えます。全インドで 29 州あるうち、ウッタラーカンド州についての人口と増加率を調べました（表1）。ウッタラーカンドの人口は、1991 年に 711 万人であったのが、2001 年には 849 万人、2011 年には 1,012 万人と、急速に増加しています。平地である Haridwar 県や Uttam Shigh Nagar 県では、10 年間で人口増加率が 30%を超え、クマオン地方の拠点である Nainital 県では、25%を超えています。ハイシーズンのナイニタル市内を訪れた時は、内外からの観光客と地元の人たちでどの宿も満員！滞在先が見つからず、その晩は野宿をしようかと覚悟した夜中に、ホテルの事務室に簡易ベッドを運んでいただいて、即席の宿泊施設を作っていただいた経験があります。

次に考えるカオスは、困難や悲しい出来事から来る混沌です。インドでは人口が多いためか、インド人の友達が増加しているせいか、毎年、知人が亡くなります。医学が発達しているにも関わらず、椅子から落ちて頭を打ち、数時間後に息絶えたというヴィノッド氏の 2 才の愛娘が思い出されます。NGO のリーダーであり、現地では狂犬病のワクチン接種のために病院へ連れて行ってくれたプシュキン博士は、2 年前、40 代後半で脳腫瘍のために亡くなりました。とても悲しく自分を混乱させる出来事ですが、私たちいつかは死ぬということを、実態を持って示唆しています。時の再現性はないことを実感し、自分の生活を見直す契機となりました。

毎回、様々な困難が起きるのですが、それらを慈しみ、そして人生の糧としようとする自分がいます。

表1 インド・ウッタラーカンド州における 13 県の人口と増加率
(India Census Data 2001:2011)

地方	県	全面積 (km2)	人口 (千人)	人口 増加率 (%)
Garhwal ガルワール	Tehri	3,642	620	2.4
	Uttarakashi	8,016	330	11.9
	Pauri Garhwal	5,329	790	-1.4
	Dehradun	3,088	1,700	32.3
	Rudraprayag	1,984	240	6.5
	Chamoli	8,030	390	5.7
Kumaon クマオーン	Haridwar	2,360	1,890	30.6
	Almora	3,139	620	-1.3
	Bageshwar	2,246	260	4.2
	Champawat	1,766	260	15.6
	Pithoragarh	7,090	480	4.6
	Nainital	4,251	950	25.1
	Udham Singh Nagar	2,542	1,650	33.5
Total		53,483	10,180	13.1

4. 解けない環境問題の課題になぜむかうのか



写真4 チャモリ県での世帯調査（2014）

初めて、インドへ行ったのは足立区の小学校で教員をしていた 10 年前の夏でした。そして世界の森林減少と課題に出会い、現在は依頼があれば出前授業をして環境問題や森林保全について伝えようという活動に至っています。

公務員を辞して研究に向かう理由は何でしょうか（よく聞かれます）。それは「解けない地球環境問題を解くためです。」と答えます。でもそれは表向きの理由で、純粋にフィールドワーク（写真4）を通じた研究が好きで、今までに述べた魅力にあふれるインドとの良好な関係が続いているからだと思います。

さらに考えると、自分が小学生の時に授業で考えた問いが今も存在するからです。「なぜ地球環境は劣化していくのか」、「なぜ森は減り続けるのか」、「貧しい国はなぜ貧しいままなのか」という問いです。世界の森林減少や地球温暖化を含む環境の課題は国際的課題であり、貧困の課題ともリンクしています。国際機関や非政府組織（NGO・NPO）など、国家や市民のレベルで努力していますが、根本的な改善は可能でしょうか。

私はそのような状況に悲観せず、自分は研究や教育を通じて世界を変えることができる可能性があると思っています。そしてこれからも研究や草の根的活動に寄与していきたいと考えます。

5. 自分のできる行動とヒマラヤで見る夢

世界の格差の実態を捉え、どんなことが私たちにできるのか。この4月から目白大学で「国際ボランティア論」を担当して、大学生を対象に国際協力やボランティアについて学び、考え、行動するお手伝いをしています。学生を観察していると、行動するということは勇気がいることだと思います。そんな一歩を後押しすることができればと、教壇に立っています。

また私は自分の住む松戸市で、環境審議会の委員をしており、この 10 月から 5 年目（3 期目）を迎えます。環境に配慮した政策を取っている国や地域は、経済的成長を遂げて先進国に追いつく可能性があると考えており、自分の拙い知識と経験が役に立てばと思い、発言をしています（議事録はインターネットで公開中）。

地球環境問題が深刻化している昨今ですが、普段の生活の中で地球環境の課題について実感する機会は稀少でしょう。それでも国内外のニュースやネットを駆使して真実を知る努力をすること、身の回りの生活を世界の問題と結びつけること、世界の状況について科学者の目で見ようとするとともに、自分なりの知見と哲学を持つこと、さらに仲間たちと問題を解き明かすために何でも語りあえる場があることが理想です。環境に配慮する行動を実行できる「成熟した市民社会」の形成を目指します。

こうした目標達成のヒントを得るために、大学から許可を得て、また家族を説得して、今度は数か月単位でインドのヒマラヤ山麓（写真5）へ出かけようと思案中です。

インドヒマラヤには、みなさんの目標を実現させようとする魅力があります。ぜひ人生に一度はインドをご訪問ください。ご要望あれば旅のサポートをしますので、編集部を通じてご連絡いただければ幸いです。

最後になりましたが、4 回にわたり本誌に連載させていただいた編集長の黒澤さんはじめスタッフのみなさま、ここまで読んでくださった読者の皆様に心から感謝申し上げます。



写真5 ヒマラヤ山麓を望む
ウッタラーカンド州にて（2018 年）

『藤農便り』 第 15 号

宮本茶園 宮本 透（自然文化誌研究会）

30 年間にわたった賃金労働者に終止符を打ち、認定農家になって 2 年が過ぎようとしています。農業委員会の就農計画に記載した茶と雑穀栽培、今年は自分の畑で雑穀を収穫することができました。日の出とともに起床して朝風呂・朝食、午前中は農作業。午後はてくてくでランチ、シャージに着替え三ヶ木の児童クラブでバイト、まあさの家で常連とおしゃべりしながら夕飯を食べ、帰宅・就寝。趣味の YouTube 鑑賞以外の楽しみは、時折訪ねてくれる友人たちと酒を酌み交わし、軽トラで圏央道を疾走して柏市に住む孫娘と戯れる事です。こんな日常生活の中で、ようやく伝い歩きができるようになった孫娘と一緒に畑仕事をする近未来を夢想しています。

・佐野川茶誕生

6 月の「上河原ほたるまつり」でお披露目した「さのがわ新茶」、ラベルをプロのデザイナーに依頼し「佐野川茶」のブランド名で 10 月 1 日から販売できるようになりました。関東大震災の産業復興策として始まった足柄茶は県西地区の山間地を中心に産地が広がり、生葉を蒸す時間の短い「浅蒸し製法」で仕上げ加工され、旨み成分のアミノ酸が多く、渋味成分のタンニンが少ない味と香りに優れたお茶です。生産販売システムに特徴があり、農協と契約した農家が生産した生葉は各産地の荒茶工場で加工され、山北町にある神奈川県農協茶業センターに一元集荷されます。運ばれた荒茶は最適な温度・湿度に設定された倉庫で保管され、製品は熟練した職人が色・香り・味を確認しながらブレンドして製造しています。農協が生葉を全量買い取って加工・販売を手がける全国でも珍しい産地直売方式で、農家は茶栽培に専念できるのが大きな長所です。

反面、各産地のブランド茶は独自に製茶工場を持つ大きな専業農家でしか製造できず、産地が見えにくくなっています。これまでの「佐野川茶」は自家用荒茶の事でした。荒茶は茶製品の原料なので素朴な味わいを好む方も多いのですが、普段煎茶を飲んでいる方は独特の青臭みが気になるようです。これまでも煎茶加工について度々紹介してきましたが、荒茶を振るい分けて葉・茎・粉を絶妙に組み合わせ煎茶に仕上げるのには素人にはできない熟練の技が必要です。昨年木村普及員の指導で製造した宮本茶園煎茶は思いのほか評判がよく、今年は佐野川の足柄茶産地 PR の取り組みとして藤野茶業部煎茶を誕生させることができました。この取り組みは 9 月 30 日付毎日新聞神奈川版に紹介されました。佐野川茶はこれまで同様てくてく・里カフェ・まあさの家・びりゅう館、新たに JA 直売所「あぐりんず」・JA 神奈川つくい藤野支店・藤野観光案内所「ふじのね」で購入できますのでご利用ください。

毎 日 新 聞
2018 (H30) 9 月 30 日 (日)
（第 3 期 産 物 認 証 書）

「佐野川茶」ブランド誕生

豊かな香りと強いコク

相模原市緑区の佐野川地区（旧藤野町）で栽培される特産茶が、「佐野川茶」のブランド名で 10 月 1 日から発売される。空気も水も清らかな陣馬高原のふもとで生産された茶は、豊かな香りと甘みのある強いコクが特徴。山村振興策として栽培が始まってから半世紀を経て、地域を冠にしたブランド茶が誕生する。

陣馬高原ふもとで生産

相模川支流の佐野川源流域に位置する佐野川地区は、南向きの段々畑や土蔵の街並み景観が評価され、2009 年に「にほんの里 100 選」に選ばれた。

茶栽培は 1967 年から始まり、70 年代後半から 80 年代前半にかけての全盛時には生葉で約 6000 ㏩が生産された。現在は農家 10 戸が 5 月の一番茶だけを摘み取り、約 1500 ㏩を生産しているが、生産者の間で「良質な茶葉を特産品として世に出そう」という機運が高まり、ブランド化に至った。

佐野川産を含め、南足柄市など西湘地域や丹沢山地周辺で栽培される県内産の茶葉は、ほとんどが全量買い取り制で県農協茶業センター（山北町）

を冠したブランド茶の販売は県内で初めてとなる。生産者でつくる茶業部の小池勇一郎会長（80）は「佐野川のような気温の寒暖差が大きく霧が深い山の中は、良いお茶ができる。ブランド化はイベントなどで消費する方ならいいところと始めるが、足柄茶の PR も兼ねての取り組み。県農協茶業センターにも従来通り収める」と話している。

農産物直売所「あぐりんず つくい」（緑区中野）▽藤野園芸センター（緑区日連）▽藤野観光案内所（緑区小淵）——で販売予定。価格は真空パック入り 100 ㏩、1000 円（税込み）。問い合わせは津久井郡農協藤野支所 10 月 1 日から神奈川つくい藤野支店に改称（042・687・4511）。



「佐野川茶」のブランド名で発売される佐野川産の新茶

霧が深く寒暖差の大きな陣馬山麓（さんろく）の佐野川地区にある茶畑—相模原市緑区で



10 月下旬から毎週連続で藤野ふる里まつり・ゆずの里ふじの café 開店式典・藤野ちいさな観光まつり・まるまるマルシェに出店して佐野川茶を販売しました。今年うれしかったのは、藤野茶業部の PR 活動や新聞報道の効果があったためか、佐野川茶を地元の茶製品と知って買われるお客様が増えた事です。煎茶と一緒に販売した茎茶・粉茶も好評で、「粉茶を料理の食材に使いたい」とまとめ買いされたお客様もいらっしゃいました。各会場には必ず足柄茶のノボリ旗を掲げ、「佐野川は 50 年の歴史を刻む足柄茶北端の産地で、藤野茶業部の農家は急斜面の茶畑をていねいに管理して良質な茶葉を生産しています」と試飲して下さるお客様に PR しました。たくさんの方々の力添えで誕生した佐野川茶、ていねいに育てたいと思います。



・秋の茶仕事

2 年目の茶畑はツル草が少なくなり、夏の間繰り広げられた雑草との闘いに勝利することができました。しかし 1 月に藤野茶業部有志で再生整枝作業を行った荒廃茶園は春先から「除草剤を使わないと大変なことになるよ」と木村普及員から警告されていたにもかかわらず、6 反の畑を管理するのに手一杯で除草作業ができませんでした。太い枝を切った株は根元まで太陽の光が届き、雑草に覆い尽くされています。9 月 11 日木村普及員の営農指導があり、茶畑更新計画のアドバイスを受ける中でこの畑をどうするか話し合いました。私は夏の管理作業を経て、安易な気持ちで景観維持ボランティア活動はしない方がよいと考えようになりました。この畑の管理はできないと判断したのですが、木村普及員は「再生に取り掛かったのだ

からやり続けたほうがいい。一所懸命やっていれば、きっと誰かが応援してくれる」と言われます。10 時に始まった研修が終了したのは 14 時、昼食もとらない充実した指導に気持ちが前向きになりました。時間が経って気持ちが変わらないよう、翌日農業委員会に出向いて利用権設定手続き書類を入手、地主さんへ手続きのお願いに伺いました。

お彼岸過ぎ、木村普及員から指示された肥料を購入して施しました。施肥の後の中耕作業、ブライアンから譲り受けた耕耘機が威力を発揮しました。昨年は 3 週間黙々とクワで耕し続けましたが、今年は 1 週間で作業を終えました。10 月 12 日藤野茶業部の茶園巡回と製枝講習会が行われました。部員の茶畑ごとに仕立てる樹形に適した機械と刈る高さを研修しました。木村普及員は各農家が持っている管理機械を把握して、「Aさんの畑はBさんが持っている機械で刈りなさい」と的確に指示します。藤野茶業部ではこれまで 1 人用機械で行っていた製枝作業を 2 人用機械で効率よくできるように樹形を作り変えています。秋製枝は、部員が協力して機械を持ち回り作業したので 10 月末までに全て終わることができました。来年の佐野川茶、今から楽しみです。



・雑穀栽培普及会活動

自給農耕ゼミやミレット藤野雑穀栽培講座で 3 年間使わせていただいた藤野駅前畑ですが、今年は自分の畑仕事が忙しくなかなか通うことができませんでした。畑周りの草刈りをお手伝いするのがやっとで、防鳥ネット張りにも参加できませんでした。中途半端な管理作業を担う事は貸主の藤野倶楽部に迷惑をかけることになるので、私は 9 月をもって手を引かせていただきました。今後は末村さんたち五穀豊穡農園のメンバーが活動を続けます。私案ですが、2019 年の雑穀街道普及会藤野地区の活動は上岩で行いたいと INC H 総会に提案します。

8 月に利用権設定が認められた上岩の雑穀畑は、鳥獣害防護対策の補助金交付手続きが相模原市に受理されて 10 月に防護柵設置工事を行いました。業者に柵を発注・設置依頼したので多額の費用はかかりましたが、これでサル以外の動物の侵入は防げます。度重なる台風の襲撃に耐えた防鳥ネットも威力を発揮し、全

ての雑穀を無事に収穫することができました。知人からお借りしたミニダンプで脱穀したキビはわずか 500g ですが「お茶の実の油を搾る日」の昼食でキビご飯となり、参加者にご賞味いただきました。

11 月上旬は津久井在来大豆の収穫に専念しました。葉の落ちた大豆の株を抜き取って束ね、ブルーシートを広げて並べていたのですが、地主の田村さんから「そんなやり方では十分乾燥させることができない」と指摘されました。田村さんは抜き取った株を稲ワラで編んで束にしてハザ掛けにし、風を十分に当てて乾燥させる方法を教えてくださいました。



乾燥には 1 ヶ月以上かけるそうで、脱粒作業を終えて軒先に広げられた大豆は硬く引き締まり黄金色に輝いています。私の大豆は乾燥が不十分で粒が大きく白色です。



農業委員会や農協で「田村さんは大豆を上手に作るから、先生にして栽培方法を教わりなさい」といわれた意味がよくわかりました。伝統知を学びながら収穫した雑穀と大豆は、ピオ市で販売できるようこれから調整作業に取り組みます。

・お茶の実の油を搾る日

5 月に開催された「和田の里みちくさの会」の茶摘みと手揉み茶作り体験、参加者が佐野川の茶栽培に関心を持って応援してくださるようになりました。10 月になると茶樹には白い花が咲き、果実が完熟してきます。相模湖で石鹸作りに取り組む seonn の一ノ瀬さんが「茶実油を使って石鹸を作りたい」と話していたのを思い出し、「お茶の花が咲き、実ができていますよ」と連絡しました。



五月のイベント企画がきっかけで一ノ瀬さんは藤野観光協会と情報交換しており、ちょうど秋にできるイベントの相談をしているところでした。話が進み、「佐野川の茶畑で茶の実を拾い、油搾りしよう」という企画が始まりました。賛同メンバーはアミーユやまあさの家で会議を開き、企画内容を話し合いながら準備しました。搾油機はちーむゴエモンメンバー有志の「油搾りの会」から借り、ランチは茶を食材に使ったメニューをまあさの家にお願ひしました。実施日は 11 月 25 日、和田の里体験センターで開催することになりました。

こうして「お茶の実の油を搾る日」が決まり、参加者を募集して当日を迎えました。晴天に恵まれ雪化粧の富士山を望みながら上岩で茶の実を拾い、和田の里体験センターに移動しました。会場ではまあさの家の飯田さんと橋本さんがジビエのシチュー・茶葉の入ったかき揚げ・キビご飯等でできたての料理を用意して、参加者は外作業で冷えた体を温めました。デザートにレアチーズケーキがでる豪華メニューでみな大満足でした。

油搾りは、種の殻を割って中身を取り出して細かく砕き、20 分ほど蒸して袋に入れて搾る作業の繰り返しです。時間が限られているのでたくさん搾ることはできませんでしたが、山吹色の油がタラタラと流れ出た時は参加者一同大感激でした。スポイトで数滴ずつ小瓶に詰め、上岩で収穫した柚子と一緒にのお土産になりました。佐野川の茶畑を使ったワークショップまた楽しみましょう。



藤野地区 自給農耕ゼミ雑穀栽培講習
問い合わせ：宮本透 090-2205-8476 まで

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.8 その 5

クリスマスとホグマニー (3)

佐伯 順弘 (岐阜県)

DAY8 (30DEC2012) エジンバラ滞在
0700 起床。エジンバラホグマニーの影響で1つの場所でエジンバラ滞在ができず、ユースホテルからゲストハウスに移動。朝食後、チェックアウトするも次は夕方にチェックインするため、ユースホテル玄関わきのロッカーに荷物を預けて、身軽になり街に出る。

0930 カールトン・ヒルというちょっとした丘にある公園に向かう。ここからエジンバラを一望できる。塔になっているネルソンモニュメントやパルテノン神殿のようなナショナルモニュメントなどの遺跡らしい建造物がある。晴天なら、のんびりとした場所だが、今は年末。曇りである。したがって、かなり寒いのである。しかし、探検家気取りの旅人はそれを無視して探索を続行することにした。



このカールトン・ヒルまでは、ちょっとした山登りという感じでわずかに体も温まっていた。建造物を見物したり、一望できる街並みを楽しんだりして良い時間を過ごす。ガイドブックを手掛かりに偶然この場所に来たのだが、実はこの後、も

う一度この場所に来ることになる。

1030 しばらく散策した後、市街地に戻る。国立スコットランド美術館。絵画のなんとか派とか、誰の作品とかはほとんど知らないけれど、絵画には幼少期から興味があり、どの国に行っても美術館にはよく行く。もちろん、水族館も博物館も科学館も行くけれど……。この National Gallery of Scotland には見たことのある絵画や名前を知っている画家の作品が多くあり、とても楽しめた。多くの人々が鑑賞に来ており、休憩用の椅子も満杯だった。このようなヨーロッパの美術館、博物館は無料のところが多くない。あの大英博物館も無料である。なんと素敵な環境であることか。本当にうらやましい。



1230 近くのパブに入って、エールでも飲もうと思ったら、1300 からでないとアルコールは販売できないとのこと。仕方なく、コーラとサーモンのムニエルで空腹を満たす。

1300 やっぱりビールが飲みたくなり、牡蠣も食べたくなって Mussel Inn Seafood Restaurant に向かう。入店するとすぐに牡蠣はすでにないと言われた。ランチに牡蠣を食べる人がそんなにいるのか？と驚いたが、ムール貝ならあるということで、ビールと共に楽しむ。ムール貝もおいしいものだとは再認識した。また、この国ではどのメニューにもチップスがついてくる。これがまたおいしいのだが、量が多いので若干食べ

過ぎた。牡蠣を食べることができなかったけれど、エジンバラにはまた来るから、その時に食べることにして店を後にする。



食べ過ぎの腹を抱えて、街を徘徊する。すると、人だかりと長い行列が突然現れた。当然、何かを突き止めなければならない。



現場に近づくと、人々が買い求めていたのは「松明（たいまつ）」であった。近くの人に聞くと、夕方に松明行列があるとのこと。これは是非とも参加せねばと松明購入行列に並ぼうとしたが、その列がとんでもなく長い。なぜ人々はこれほどまでに松明に熱狂するのか。その謎を突き止めたいとの衝動に駆られたが、あまりの列の長さにあっさり気持ちが折れてあきらめた。若干の失意の中、その場を離れようとする意味不明の看板が・・・。



なぜ、ガンダム？ Mulled Cider？ モルドワインはホットワインのことだが、ホットサイダー？

うまいのかそんなもん。しかもガンダムがナイフとフォーク持ってるし・・・。新たな研究課題が生まれたが、これは追究する方法を考えることも面倒くさくなり、放棄した。

雨が降り始めたので、急いで荷物を取りに行き、本日の宿泊施設に向かった。



1530 Guest House GLENORA に到着。部屋は広くないが、機能的にまとめられ、バスルームもきれいだ。予想以上に快適で気に入った。松明行列参加は 1800 過ぎに行くとして、部屋の探索（盗聴器が仕掛けられていないか、隠しカメラがないか、爆発物はないかなど、作戦行動上の基本。）と旅の記録、そして、少し寝る。



1820 防寒装備を整えて、散歩に出かける。通りを曲がると……。なんだこれは！なんの暴動だ！と思われるくらいの松明！松明！松明！人々は松明を手に流れを作っている。暴動にしてはあまりにも楽しそうだ。これがエジンバラホグマニーか。松明を持っていなくても歩いている人がいる。なんだ、大丈夫かとお気楽な東洋の旅人は松明行列に加わる。



隣で松明を持っていたスコットランド人と思われる人が話しかけてきた。松明もって写真撮らない？と言ってくれた。お言葉に甘えて、観光写真を撮らせていただく。なんか、みんな盛り上がっている。歓声を上げたり、歌ったり、大声で話したりしている。いったいどこに向かっているのかわからないまま、流れについていく。みんな歩いているんだから、歩いて戻ってこれるだろう。もし、戻ってこれなくて徹宵することになっても大丈夫なくらいの体力はある。出たところ勝負である。酒も飲んでいないのに、まるで酔っているかのような状態だった。さて、人の流れはなんとなく知っている場所を進んでいることに気づく。(カールトン・ヒルに向かっている！) 不安が消える。丘を登ると人々は燃え尽きた松明を所定の場所に始末し、丘いっぱい群れていた。丘にある多くの建造物はライトアップされ、幻想的な美しさだった。しばらくすると「エンジンバラホグマニーが始まるよ！」というような放送が流れ、たくさんの花火が打ち上げられた。日本の花火よりもやや低いところで炸裂する花火は美しく輝き、人々の歓声が沸き起こった。素晴らしい FireWorks だった。



花火が終わり、その余韻を味わっていると、みんな寒かったのだろうか、「あれっ？」と思うくら

い切り替えて、あっさりと帰り始めた。

みなさん、あっさり帰っていくのだが、こっちは気分が盛り上がり、このまま帰れない。



帰り道に見つけたパブに入る。落ち着いた照明で店の外から想像できないくらい広い。そして、ずらりと並ぶビールサーバーのレバーにさらに気分が盛り上がる。こういった場合の決断に関わる瞬発力は誰にも負けない。約0.5秒でオーダー。Santa's sprit サンタクローズ？ 飲み終わる直前に次の1杯を決める。Flying scotsman 空飛ぶスコットランド人？どちらも味わい深いビール。1PINT×2杯 約1140ml

2杯飲んで、店を出る。ほろ酔いでゲストハウスへの道を歩いているとまた、いい感じのパブを発見。迷うことなく、入ってみる。ここでもビールサーバーずらりとならぶ。しかし、旅先で酩酊するわけにもいかない。下手をすれば、凍死である。3秒近く迷った拳句一番近くにあった Deuchars IPA を1PINT 飲む。その後、無事ゲストハウスに帰投。2200



DAY9 (31DEC2012) エジンバラ滞在
0800 起床。朝食はエッグベネディクト。



料理としては知っていたが、食べたのは初めてである。イングリッシュマフィン、ポーチドエッグ、チーズのソース（調べる必要あり）が基本構成である。味は想像以上に濃厚かつ複雑でとても気に入った。その後、部屋が快適すぎて昼近くまでのんびり過ごしてしまった。これじゃ日本の休日と変わらない。ていうか、気分はもうエジンバラの住人なので別にどうということもない。とにかく、昼食も食べたかったので散歩に出る。旅に出ると勘が冴える。よさげな PUB The White hart Inn を見つける。



なんでもここは、「蛍の光」を作詞したスコットランドの国民的詩人ロバート・バーンズが通ったパブだとか。スコットランド名物ハギスとビールで昼食。旨し。心身ともに満足。



散歩を続行すると噂に聞いていたカフェ登場。the elephant house。J.K ローリングがメガネ少年の話を書いたカフェだ。写真を撮る東洋人が数多くいたので、間違いないと思われる。（自分も含まれるのはやや残念である。）ここでカフェに入るのは恥ずかしいので通過。その流れで探索続行。Scottish National Portrait Gallery へ。写真かと思ったら絵画、肖像画だった。よい作品が多く面白かった。その後、地図を見ていたら、スコットランドの海が見たくなり、海まで歩いた。約1時間歩いた。理由はない。薄暗くなっても歩いた。かなり暗くなっても忍者なので夜目が効くのだ。薄暗い海。岩場に波が砕けていた。いかにも北国の海という感じ。日本海よりなんとなく厳しい感じがした。帰りはバスで市街地に戻る。1700 着。一度ゲストハウスに戻って休養後、再度出撃。これからエジンバラホグマニーのメイソイベント「ストリートパーティ」が始まる。

(つづく)

○ 今後の活動予定のお知らせ (2018 年 冬～2019 年春)

- 12/22-24 『冒険学校 まふゆのキャンプ』 @小菅村 2泊3日
 2/16 NPO 法人自然文化誌研究会 『第15回通常総会』 @藤野町
 4/21 『のびと講座 野草の天ぷらとお茶つみの会』 @東京学芸大学環境教育研究センター
 5/3-6 『冒険学校 むらまつりキャンプ』 @小菅村 3泊4日

※ ログハウスづくりはトイレの建物が完成 (全体はまだです) したため、春までお休みです。

○ 事務局より

●「霜が降り、紅葉シーズンも終えた小菅村は静寂に包まれます。路面凍結もあり、お客さんが減ります。特にバイクのお客さんがいません。雪がないのでスキー場也没有ありません。畑も凍るので、できる農作業は堆肥づくりのための落ち葉掃きぐらいでしょうか、大きな籠を載せた軽トラックが村内を走っています。たまに聞こえるのは、狩猟をしている銃声が響きわたるぐらいです。雪下ろしが無いので、皆さんのんびりとしています。温暖化と住居が良くなったため、昔ほど寒くない。60代の人が言うには、昔は凍った河川でスケートをして、夜は自分の吐く息で布団が凍ったとのこと。1月は寒さの底ですが、冬至も終わって陽が長くなり始めます。フキノトウも出始めるかもしれません。思ったよりも冬の時間は短いかもしれません。個人的にはこの静寂な時間が好きです。麗しき日々がネタがないので、今回は長めです。

クロ

○ 事務局の麗しき日々

- ・だにえるは小菅の道中でバイク転倒も無事回収されたもよう。
- ・ちえのわの大学4年生たちは、ほぼ就職が決まったもよう。
- ・はるちゃんの今年の運転テーマは「謙虚」だそうです。
- ・青樹も就職に向けてようやく第一歩を踏み出せたもよう。
- ・翔くん：「だにえるくんもはるちゃんも、まだまだ未熟者だね」
- ・山慶(特殊伐採)のチョ小林くんは台風特需で儲かっているもよう。

○ 会員の皆様へサービスのお知らせ

神奈川県相模原市藤野町にある『藤野倶楽部』は今年も INCH 賛助会員です。INCH 会員への特典として、ナマステ今号を持参された方には「百笑の台所」の食事料金を 10%割引いたします。アクセスは藤野倶楽部の HP をご覧ください！！

○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか？

略称 INCH (インチ)。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、40年以上にわたって活動を続けています。2004年から NPO として再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者養成講座 (のびと研修会)』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。会員には以下 8 つの種類があります。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額 (1～12 月) です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正会員：10,000 円 一般会員：5,000 円

学生会員：3,000 円 賛助会員 (個人・団体)：10,000 円

家族会員：6,000 円 特別維持会員：100,000 円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000 円

雑穀街道特別会員 (小菅特別から変更)：1口 1,000 円から

成合基金 (冒険探検基金)：「成合基金」と記載してください。

郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナマステ 134 号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

<発行日>2018 年 12 月 10 日

<編集>自然文化誌研究会 事務局

<発行>特定非営利活動法人

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

<事務局>〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL：0428-87-0165・090-3334-5328 (事務局黒澤)

E-mail：npo-inch@wine.plala.or.jp

H P：http://www2.plala.or.jp/npo-inch/

次回「ナマステ 135 号」は、3 月上旬の発行を予定しています。お楽しみに！！